

「研究セミナー」報告

野生生物の保護管理

「行政に必要なこと、研究者ができること」

2010年9月18日(土) 19:00-20:30 場所：岐阜大学

今回報告する行政研究部会の研究セミナーは、2010年度哺乳類学会、野生生物保護学会の合同大会において行政研究部会総会の中で開催されたものです。部会員以外の方も含めて出席者は約45名でした。

野生生物の保護管理においては「科学的・計画的な保護管理」を目指して多くの都道府県で努力が続けられていますが、行政が必要とする情報と、研究者が提示できる情報には、依然として大きな乖離があります。行政担当者や研究者は、お互いが置かれている条件や制約を理解し、目的を達成するための合理的な道筋を選択していく必要があります。このセッションでは、まず、3つの県で行政と研究に関わった担当者から話題供を受け、「社会の要求と行政の立場」、「研究に必要な条件と研究に求められる成果」、「科学的な保護管理への道筋」などについて事例発表と議論が行われました。

丸山哲也さん(栃木県自然環境課)は、行政上の意思決定や合意形成にはどのようなデータが求められるかということについて、栃木県ではシカの密度を指標として目標密度を決め、必要捕獲数を検討していることや、個体数や密度の推定や、被害を指標を用いて正確に評価を行うことの困難さを報告されました。

野崎英吉さん(石川県自然保護課)は、丸山さんと同じテーマで、石川県の二ホンザルの特定計画において、計画検討会、審議会を開き周到に計画を策定していること、そのためのデータは白山自然保護センターを中心とした組織で科学的なモニタリングを実施して個体数、群れ、分布の拡大などを把握していることが報告されました。岸本康彦さん(兵庫県立大・兵庫県森林動物物研究センター)は、研究機関はどのようなデータを提供していくのかというテーマで、兵庫県でシカの目標捕獲数がこれまで年2万頭であったものが、ベイズ法を用いた個体数推定により個体数を減少させるためには年3万頭の捕獲が必要であることを明らかにして、これまでの長年の行政判断を覆して年度の途中で県知事の裁定で3万頭に引き上げたことと、3万頭捕獲するための効率的捕獲方法の研究事例を紹介され

逸見一郎(株式会社地域環境計画)

ました。

事例発表後、坂田宏志さん(兵庫県立大・兵庫県森林動物物研究センター)の司会で意見交換が行われました。特定計画で結果を出せないでいる行政は、目標捕獲数などを科学的に把握することの重要性和、それを意思決定にどのように反映させることが出来るかについて、いつになく熱のこもった意見交換が行われました。特に「内的アカウンタビリティー(行政下級機関や関連研究機関が上級機関に対して結果を説明する責任)」の重要性が共通認識として共有されました。

行政研究部会選定

2010年野生生物 10大ニュース

(注) ニュースの順位付けは行っていません。時系列順に並べたものです。

1. 佐渡で訓練中のトキをテンが襲撃 (3月)
2. 奈良公園のシカをボウガンで殺傷 (3月)
3. 生物多様性国家戦略2010の閣議決定 (3月)
4. CITES会議でクロマグロ取引規制否決 (3月)
5. 静岡県でかみつきザルが大暴れ (8-9月)
6. 2006年に次ぐクマ大量出沒で事故多発 (9-11月)
7. 愛知名古屋でCOP10開催。画期的成果 (10月)
8. 生物多様性保全活動促進法が成立 (12月)
9. 西湖で田沢湖産絶滅クニマスを再発見 (12月)
10. 諫早湾干拓の開門判決に国が上告断念 (12月)

「野生生物10大ニュース」の選定について

ニュース選定にあたり、まずは部会幹事会で候補を選定し、部会員(準部会員を含む)によるネット投票で決定しました。人と野生生物の関係はどうだったのか、あらためて振り返るきっかけにいただければ幸いです。

★ 行政研究部会では部会員を募集しています。学会員以外の方も、準部会員として参加いただけます。詳しくは、
<http://www.wcsjpn.org/~gyousei/index.html>
をご覧ください。